

## 地域が教科書・地元が先生

安溪遊地編著  
『西表島の農耕文化  
海上の道の発見』  
(2007年3月法政大学出版会)  
のできるまで  
とそれから の実況中継

1

1. 西表島を  
中心とする  
フィールドワー  
クの論文集  
1978年～  
1998年の文章  
を抜粋  
(目次参照)



## 日本農耕起源論に理科・文科を 総合して迫る



在来稲の品種特性の分析と復元、  
南の自然の中での栽培法の聞取



## 下手でいいからやってみる(参与観察)



## 畑作・交易・精神世界も研究対象に




## 安溪遊地 + 安溪貴子と島の方々との共著です

西表島鹿川、前底マナビ、屋良部亀のみなさま、崎山、赤嶺ナシキ、川平永美、川平永光のみなさま、網取、東若久和利、東若クヤマ、東若力三、粟野トク、伊泊文雄、石田正一、大山長考、大山八重、山田鐵之助、山田武男、山田シズ、山田(入伊泊)雪子のみなさま、舟浮、池田稔、池田英、井上文吉、清水カメ、仲立孫次のみなさま、祖納、東浜孫助、粟野実、石垣昭子、石垣金星、西表全星、西表貞子、西表全彦、大浜孫慶、大浜長貞、古見用美、古見タケノ、古見与志人、古見用全、下田正夫、新盛行雄、新盛浪、玉代勢秀文、玉代勢クヤ、田盛インツ、田盛雪、那根亨、那根武、那根弘、那根伊茂、那根伊正伸、那根伊孫一、那根伊宇子、那根伊孝、波照間マエツ、花城政子、星勲、星千恵、星洋光、前大用安、前底正一、前津克子、前泊ツヤ子、松山忠夫、宮良全作、宮良里、宮良孫勇、宮良用茂、宮良チエ、宮良用範、本原勉、山城孫勇のみなさま、干立、新城寛好、新城トヨ、新城節子、石垣長有、稲福伊勢戸、稲福肇、宇保泰金、大浜正演、加藤廣一郎、小底貴一、宜間正二郎、宜間照子、黒島英輝、黒島寛松、黒島シズ、慶田盛富士、慶田盛ミツ、崎枝泰明、崎枝政子、西銘二郎、西銘スミ、平得石三、真謝永暉、真謝光、前鹿川武吉、美佐志義一、与那国美津、匿名のAさんのみなさま、浦内/干立、黒島ナサ、与那国茂一のみなさま、上原/鳩間島、慶田城勇さん、中野、津嘉山彦さん、古見、安里正一、新本ウナリ、次呂久弘起のみなさま、大原、新珍健、西大舛高一のみなさま、大富、高江州元徳、三浦三郎のみなさま、南風見/豊原、大底功さん、竹富島、上勢英元、上勢頭亨、大(おお)山功、加治工要佐、島仲長正、高那真牛、仲盛長扶のみなさま、黒島、高那真牛、竹越堅一、竹越トミ、東盛ヲリのみなさま、小浜島、大崎秀雄、大久(だいく)保久利、仲盛長扶のみなさま、波照間島、後底阿良加、仲本信幸のみなさま、与那国島、東浜永成、池間苗、入仲誠吉、浦崎栄昇、大新垣小枝子、我那覇尚、久部良勇吉、崎枝英好、東迎仁太郎、泊千代、泊祖良、外間守之、前粟蔵ウナリ、前粟蔵加禰、与那覇仁一のみなさま、石垣島四箇、平良太郎、石川正芳、仲本賢尚のみなさま、石垣島川平、大底シゲ、仲野金雄、仲間正位のみなさま、本部町伊豆味、又吉ヒロ子さん、今帰仁村与那嶺、仲宗根小五郎、仲宗根亨、潮川義雄のみなさま、国頭村安田、大城ヨシさん、国頭村興、宮城久元、宮城親昌のみなさま、加計呂間島西阿室、袴臣雄、袴正己、袴ミカのみなさま、屋久島、大石浩、中島キヨ、本溜ケサ、牧ハルエのみなさま、種子島西之、日高留哉さん、ある南の島、匿名のP夫さん、P子さんのみなさま。(本文より、は、とくに長時間お話しをうかがった方々)

地元・沖縄のメディアで紹介




「地域を教科書に」学んだ論文が地域での教科書に (2006 ~ )



2007年9月、西表島にて。町史編さん委員会西表島部会月例会では、昨年来、安溪の「西表島の稲作」「西表島の焼畑」を教材として朗読しながら、地元の方々がユンタク(自由なディスカッション)。

撮影: 永岡久美子さん 企画: 里井洋一さん(琉大)

「聞いてしまった者」の地域への責任  
1. 話者が筆をとる (ひるぎ社, 1986, 90, 92)

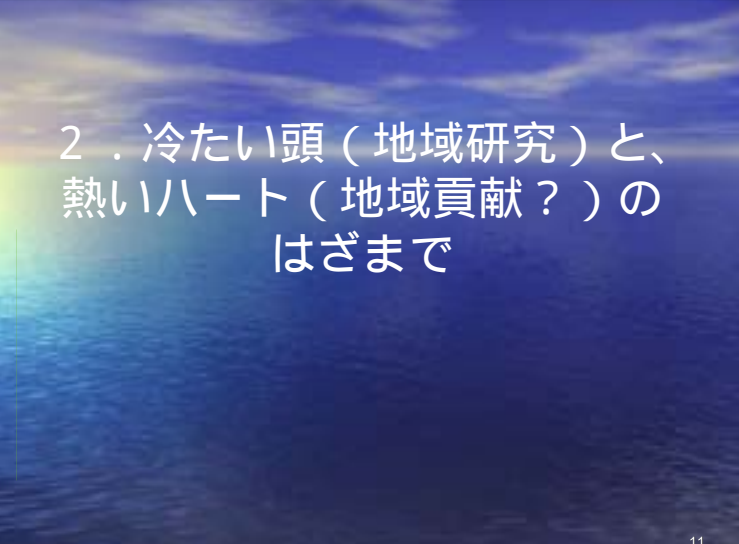


「聞いてしまった者」の地域への責任  
2. 地域独自の環境と文化の継承者を育てる



2000年葦書房      2004, 06年弦書房      2006年海鳥社

2. 冷たい頭 (地域研究) と、熱いハート (地域貢献?) のはざま



地域研究のジレンマ



西表島の廃村の生活復元(修士研究)  
人間の住むところまで8時間歩く



文化や言語も面白い(1974)



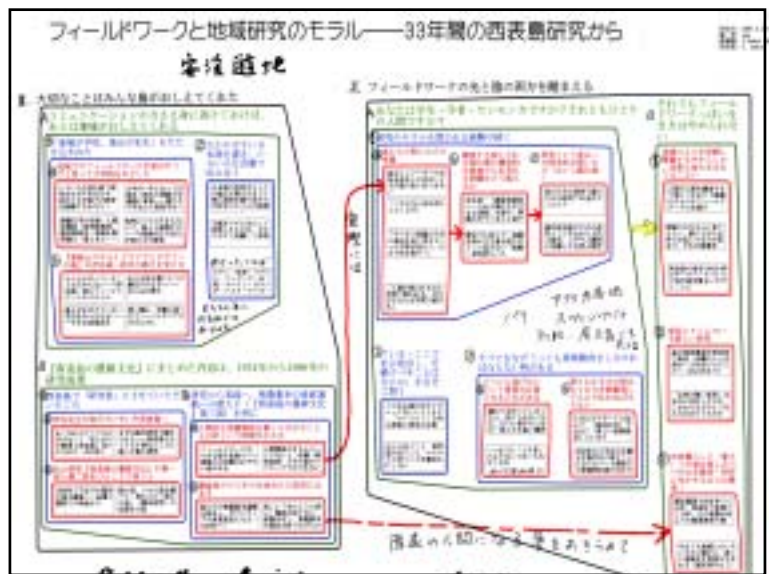
島の人たちやおいしい食べ物に惚れ込む



地域のふところに深入りしたら.....  
そこは



西表シンポ(1988)のあとヤマネコ印西表安心  
米運動にのめりこむ  
(~1992ごろまで)



「調査地被害 される側のさまざまな迷惑」(宮本常一、1972)

渋沢敬三(しぶさわ・けいぞう)先生の教え

1. 他人に迷惑をかけること
2. でしゃばらないこと
3. 他人の喜びを心から喜びあえること

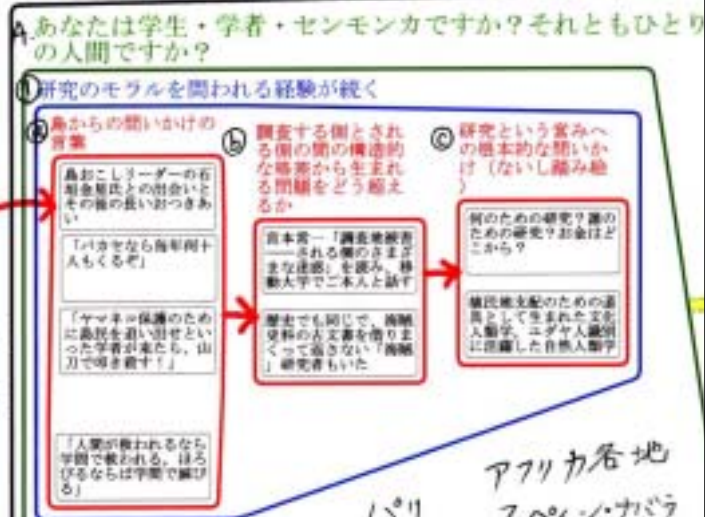


宮本常一先生

レポートなどは地元の人にチェックしてもらえば安心



Ⅱ フィールドワークの光と陰の両方を踏まえる



西表島の豊年祭にて



「仲間だ」と思われればいいんじゃないよ(宮本常一)



そのバイオアウワークにせまる

# 今西錦司

京都大学彫古博物館・梅村忠次館長酒井浩二

3. 西表島にたどり着くまで。影響を受けた二人の先生は、どちらも今西錦司さんの弟子でした。

24

「寝たきり」の1年生から、日本列島を教科書とする移動大学のスタッフに(大学3~4年)



1973年新潟県巻町で第11回移動大学開催

(学園紛争への答えとして東工大を辞した)川喜田二郎氏の移動大学の8つの目標

創造性開発と人間性解放  
相互研鑽  
研究即教育・教育即研究  
頭から手までの全人教育  
生涯教育・生涯研究  
異質の交流  
地平線を開拓する  
雲と水と

参加して得たもの  
・フィールドワークへのあこがれ  
・KJ法への入門  
・写真撮影3000枚などなど

サル・ヒト・アフリカの伊谷門下生に

「君の行くところは1か所しかない。イリオモテ島の廃村や。人類学のフィールドはなあ、遠けりゃ遠いほどええのや。」



伊谷純一郎先生(1926~2001)のユニークな教育は <http://ankei.jp> で「伊谷」を検索してください。

I. 大切なことはみんな島がおしえてくれた

A. コミュニケーションの力さえ身につけておけば、あとは地域がおしえてくれる

① 「地域が学校、地元が先生」をたたき込まれた

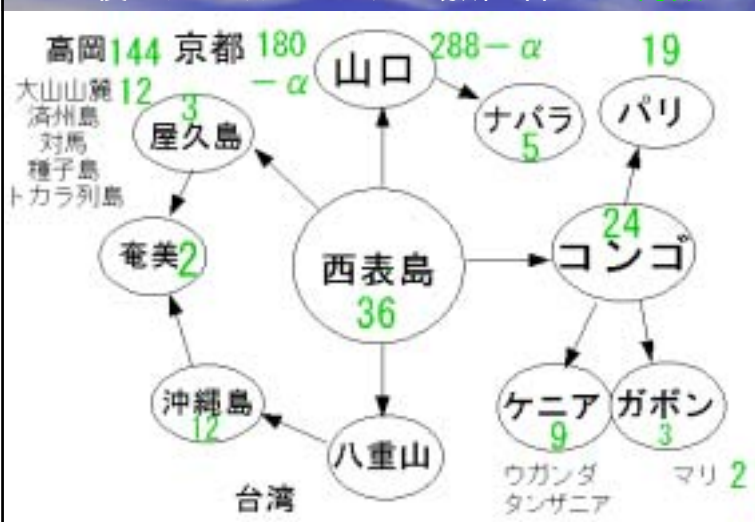
② わかりやすい日本語を書き、いろいろな言葉で伝え合う

③ 『高嶺山のサル』『ゴリラとピグミーの森』の伊谷純一郎氏の教えを受ける

「かじったこせば」  
ラテン・西表・スワヒリ・コンゴ・仏・英・スペイン・オランダ・ポルトガル・ドイツ

さちちん年(何百冊かの本)はあ

その後のフィールドワークの場所と暮らした月数



4. いま主に研究していることと発表の場

学会誌 『文化人類学』『保全生態学』『南島史学』『アフリカ研究』など  
一般誌 『生命の島』『エコソフィア』『ビオストーリー』『南島の地名』など

## 奄美・沖縄の人と自然の1万年史



戦争中の鮮明な空中写真に興奮  
気味の地元のみなさん(奄美市)

## 自然認識の固有名詞による研究 西表地名データベースの構築



10年ぶりの網取廃村訪問

## 研究者・教員である前に 一人の生活者として問いかける

② 「いま・ここで私が発言し、行動すべきことはなにか」を自分に問う

このまま進めばタイタニック号というときに「ストップ!」と叫ぶ覚悟と勇気が必要

お上の言うこと、専門家の言うこと、マスコミの言うことを呑み込まない

③ すべてをなげうっても真剣勝負をしなければならぬ時がある

どこにも逃げないという覚悟が必要となるときがある

④ 降りかかる火の粉はもてる力を総動員してもふり払わねばならない

⑤ 上手にオプอร์ตに臨んで、「絶対反対」ではなく「新しい政策提言」といおう

2000年から学会の主体を生物学会に移すことになった——上原照子 力量研究所計画のおかげ

⑥ 関わりを作ってしまったら、抜けれなくなる。互いに相手の人生の一部となる悪い選択

⑦ いつまでも「よそ者」のふりはしては行かれない

ルーツは山に

いづれでもどこでも移動大学

それでもフィールドワークっぽい生き方はやめられない

① 地域の人々を信頼し尊重する中からしか、成果も金も生まれてはこない

人間が人間を調査するやうなつきまとう精神。そのものがフィールドワークの本質か

地域のみなさんに見てもらい、誰にも分かる形でお返しするのが基本で、それが最優先

西表島の地名10000+のデータベースづくりで科学研究費をいただくことに

② 現在と取り組んでいる新しい研究

総合地球環境学研究所で奄美・沖縄の人と自然の一万年前プロジェクト (2016年まで)

「自然の賢い利用」は本当に存在したのか、これからはどのようなものがあろうのか

④ 田舎暮らしと「教士」への道を志しみつづそれを教育・研究に生かせる山口は最高!

瀬本真幸で田を作って10年、高瀬村で家建てて10年。その現場が何よりの環境教育の場

やまぐち地域とのいろいろなご縁から、新しい地域生活環境が生まれる(瀬本真幸)

## 稲刈りもぶち面白いありますのんた



## 現在準備中の出版物(仮題) 鬼が大笑いします!

- ・地域が教科書・地元が先生(2008)  
(現代GP地域活性化叢書(仮称)1)
- ・フィールドワークに出る前に(2008)  
(「フィールドワーク実践論」ハンドブック)
- ・西表島地名データベースCD-ROM版(2009)
- ・コンゴの森の英雄神話の世界  
(ソゴラ語、スワヒリ語対訳版)(2010)
- ・南島の物々交換経済(2011)
- ・安溪遊地+安溪貴子「島からのことづて」  
屋久島の雑誌「季刊・生命の島」連載中<sup>36</sup>

ウェブ上でもお会いしましょう

<http://ankei.jp> Ankei's Active Home

<http://tokudi.jp> 徳地づくり達人塾

<http://niho.jp> ふしの川清流の会

<http://kanpoken.jp>  
山口県環境保全型農業推進研究会

<http://www.esj.ne.jp/chugoku-shikoku/>

日本生態学会中国四国地区会